

## *the*+固有名詞と総称表現としての *the*+単数名詞との関連性に関する一考察

日野上 福 枝  
(関西大学大学院)

### 1. はじめに

従来の英文法書においては、固有名詞に付く定冠詞*the*の有無に関する理屈についてきっちりとした説明がなされておらず、結果として暗記分野として習得せざるをえない。また、言語学的観点においては“物理的な基準”や“知名度”といったさまざまな諸説があり、固有名詞に付く*the*に関して統一的な考え方がない。

さらに、仮に固有名詞に付く*the*に関して説明ができて、定冠詞*the*がもつ意味において、全体を統一できる見方がない。このような定冠詞がもつ意味に関する全体的な統一性のなさが、日本の英語学習者の冠詞理解を困難なものとしている一因であるように思う。

本論においては、従来の『*the*+固有名詞』の扱い方への疑問点を考え、そして今までは全く関連付けられることなく扱われていた『固有名詞に付く*the*』と『総称表現の*the*』との関連性に焦点を当てながら、従来のように定冠詞*the*に関して別々に説明すべきか、または統一的な基本原理が存在するのか考察してみる。

### 2. *the*+固有名詞に関する諸説

たとえば、従来の英文法書は、それぞれの固有名詞に対して*the*が必要か否か記載されている。なぜある固有名詞には*the*が必要であるのかといった理由は一切説明されておらず、結果として個々に覚えるしかないのが現状である。

他方、英語学や言語学では詳細に扱われている。たとえば、Quirk & Greenbaum & Leech (1972) : *A Grammar of Contemporary English*では、institutionalized (公共性)が基本原理であると説明している。しかし、この説明では、なぜ定冠詞*the*をつけることで公共的意味合いが生じるのかについての説明がなされていない。

- (1) The difference between an ordinary common noun and a common noun turned name is that the unique reference of the name has been institutionalized, as is made overt in writing by initial capital letter. The following structural classification illustrates the use of such proper nouns with the definite article (p.164) .

一方、日本人にとって、冠詞は英文法の中で、理解の難しい文法項目であることは間違いないく、これに関心を示す研究者も多い。たとえば、正保 (1996) は *Hewson : Article and Noun in English* に依拠しつつ、次のように述べる。

- (2) 人間の感覚で境界を認識しにくいものには冠詞をつけてそのものを特定する。

ocean, sea, river, gulfなどははっきりとした境界がないのに対して、pond, lake, island, bayは境界がはっきりしている。境界がはっきりしない種類の地名には定冠詞をつけることによってそのものを明示し、他方、おのずから境界が明らかなものは定冠詞を要しない。人間の感覚で境界を認識しにくいものには冠詞をつけてそのものを特定する (pp.99-100: 傍点筆者)。

要するに、「境界」という物理的なものさしによってtheの有無は決定されるとしているのである。しかし、この説明においては天然の地形以外のものを網羅しておらず説明として不十分である。

あるいは、樋口&Gorman (2004) では「文化的了解のthe」という記述がある。

(3) 見渡せないほど広い場所や強大な建造物は多くの人々に知られているはずであり、それゆえ、同定可能であるのに対し、狭い場所や小規模の建造物はその土地の人々のみが用いる符帳にすぎず、他の土地の人々には同定不可能だからである。やや比喩的に言えば、誰もが知っている「全国区」の固有名詞にはtheがつき、「地方区」の固有名詞にはtheが付かない (p.298: 傍点筆者)。

(4) 動物園名は英語圏では通例theが付けられるが、非英語圏の動物園は無冠詞で用いられる。これは同定可能性の程度の相違に帰せられる (p.345: 傍点筆者)。

と説明している。

しかしながら、実際の用例を眺めてみると、必ずしも単純に割り切れないところがある。インターネットなどで検索すると、非英語圏の動物園としての上野動物園や旭山動物園にも“Ueno Zoo”, “the Ueno Zoo”, “Asahiyama Zoo”, “the Asahiyama Zoo”と表現されており、樋口&Gorman (2004) の説明と矛盾が生じる。

このように「the+固有名詞」に関してそれぞれの研究者が自らの言葉で説明をしていて、統一的な考え方がないのが実情である。また、はたして“境界の有無”・“規模の大きさ”という物理的な世界や“認知度”における判断基準によって、本当に固有名詞のtheの有無は決定されているのだろうかという疑問が起こる。

次の[表1]は、正保(1996, pp.97-125)や樋口&Gorman(2004, pp.298-325)の考えを基に、天然の地形およびそれに準ずるものにおけるtheの有無の例を取り出してみたものである。よく似た種類の名詞をtheの有無で左右に対比させた。

[表1]

the + 固有名詞	固有名詞
● <b>Gulf</b> the Persian Gulf	● <b>Bay, Cove</b> Kuwait Bay, Mirs Bay, Fiarview Cove
● <b>Coast</b> the West Coast (NZ)	● <b>Beach</b> Carlsbad Beach, Virginia Beach
● <b>River, Canal</b> the Potomac River, the River Themes, the Hudson River, the Panama Canal,	● <b>Rapid, Creek, Stream</b> Granite Rapid, Wounded Knee Creek Austin Creek, Mangahouanga Stream

もし人間の視界性による判断でtheの有無を決定していると言うならば、例えばthe Persian GulfもKuwait Bayも、とうてい“端”を視覚で確認することは難しい。またRiverやRapidに関しても、riverは人間の眼で端を確認できないほど大きなものであり、Rapidは必ず端が確認できるほど小さなものといった、物理的な境界性によって固有名詞のtheの有無が決定付けられているとはいいがたい。また知名度はかなり地域的・主観的要素に依存する要因で、そのままtheの有無を決定する判断基準とするには説得力に欠けるように思われる。

このように、固有名詞に対するtheの有無は、従来考えられていたような物理的な基準や知名度に頼った判断基準では少なくとも説明としては不十分である。そもそもtheは後述の総称表現に代表されるように、話し手の頭の中で概念化のプロセスが生起したことをマーキングする機能をもっている。つまり、物理的世界に直接関わるのではなく、theは元来概念操作に関わる文法装置であるとの認識が必要なのである。

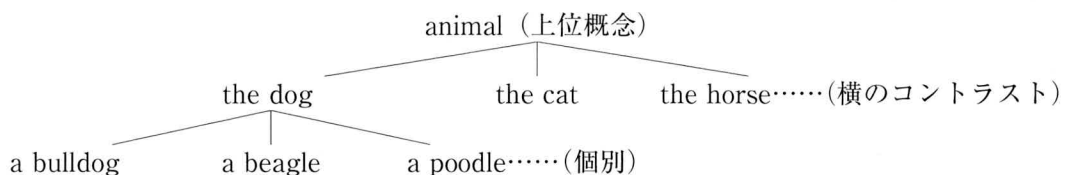
### 3. 統一的な見方の提案

#### 3.1 [the+名詞単数形] の総称表現との関連性

##### 3.1.1 [the+名詞単数形] の総称表現の基本原理

固有名詞につくtheに関して今まで統一的な見方がなかったが、本稿では個々に働く基本原理は総称表現のtheと同じではないかと考えたい。

[the+名詞単数形] (例: The dog is royal.) の総称表現について、[無冠詞+名詞複数形] の総称表現 (例: Dogs are royal.) と比較しながら見てゆくことにしよう。前者を「定冠詞総称」、後者を「無冠詞総称」と呼ぶことにする。無冠詞総称は漠然とした個体羅列としての総称であり、個体としての集合体の大きさが結果として「すべてのもの」、すなわち総称的意味をもたらすのだと考えられる。一方、theによる総称表現が可能になる状況は、織田 (1982, pp.271-274 : 2002, pp.138-141) も指摘するように、自分と同じ仲間から構成される横のメンバーシップ (横の関係) と、その上位概念 (縦の関係) が想起されうる場合である。例えば、「イヌ」を扱う場合、それとコントラストを構成するほかの存在 (= 仲間) (e.g. 「ネコ」「ウマ」) が一方にあり、それらを括る上位概念としての「動物」が容易に想起される必要がある。その上で、一個体がもつ特徴の共通性を通して「個」から「類」への抽象化が行われるのである。その結果、動物という上位概念を軸にしつつ、「犬というもの (the dog)」VS「ネコというもの (the cat)」VS「馬というもの (the horse)」という対照的概念化が成立するのである。いうなれば、横並びのメンバーシップの対比と、そのメンバーを括る縦の關係に相当する上位概念の關係性を確認した上で、それぞれのメンバーに共通の特徴を個から類のレベルへと抽象化するのである。つまり、縦と横の關係性を確認しながら、類への抽象化のプロセスが生起したことを示すこと (= マーキングすること) が、定冠詞theの担っている大きな役割なのである。固有名詞につくtheも、基本的に、この『総称表現のthe』と同じであるというのが本論の立場である。



[図1]

### 3.1.2 [the+固有名詞] の基本的原理

前ページの〔図1〕の趣旨に沿ってthe+固有名詞を説明するために、具体的な例を用いて考えてみたい。ここでは、Canalを取り上げることにする。

Canalはその大きさにかかわらずtheを伴う。もし正保(1996)や樋口&Gorman(2004)が言うように、物理的基準で判断しているならばCanalでもtheの要るものと要らないものがあったとしてもよいということになり、矛盾が生じる。むしろ、概念化・抽象化を誘発する要因が働いていると見たい。

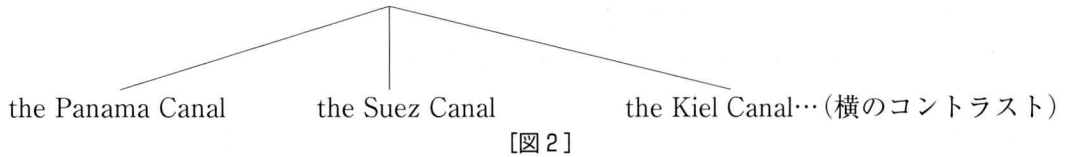
(5) ではthe Panama Canalに関する記述を取り上げてみた。この説明を読むと、運河は海運業においてかなりの貢献を担ってきていることがわかる。つまり、世の中に一つという固有名としてとらえられていると同時に、社会的な役割という属性を通して対象をながめることができる。そのとき、同類の存在が想起されるのである。先ほどの「総称のthe」と同じく、想起される同類の仲間たち(横の関係)の中で、今は(他の運河でない、他ならぬ)Panama Canalを取り立てて問題にしているという意味で、いわばtheが縛りをかけていると考えられる。ただし、上位概念を想起させることのない点が、総称のtheと異なる。

- (5) **The Panama Canal** (Spanish : *Canal de Panamá*) is a major ship canal that traverses the Isthmus of Panama in Central America, connecting the Atlantic and Pacific Oceans. Construction of the canal was one of the largest and most difficult engineering projects ever undertaken. It has had an enormous impact on shipping between the two oceans, obviating the long and treacherous route via the Drake Passage and Cape Horn at the southernmost tip of South America.

(*Wikipedia*, [http://en.wikipedia.org/wiki/Panama\\_canal](http://en.wikipedia.org/wiki/Panama_canal))

先の指摘にあったように、定冠詞を用いたとき、公的重要性にも着眼されるといのは、単なるラベル(固有名)としてではなく、その属性(e.g. 運河のもつ機能)に目を向けたことの当然の帰結なのである。つまり、定冠詞を用いるから公共性という属性が伝わるのではなく、公共性という属性に着目したことから、概念化・抽象化のプロセスが起動したのである。

問題を整理してみよう。固有名詞に定冠詞theがついて、一般名詞化される背景にある原理は、正保(1996)などが指摘する視覚的境界線・大小といった物理的な基準、あるいは知名度ではない。対象が有する属性に着目することで、同じ属性をもつ、横に並ぶ他のメンバー、そしてそれとの対比(仲間のBでもなく、Cでもなく、A)という概念操作が誘発されるのである。固有名(呼び名)とは、「わたし」と「あなた」の間で通用する符帳である。世の中に一つを主張する固有名から、他のものも持ちうる属性へと認識の力点がシフトするためには、その対象が話し手(わたし)と聞き手(あなた)の領域を越えて、誰もが注目するに足る個性や属性を持っていなければならない。たとえば、広く公共性をもつことが、その対象が人の注意を引く大事な個性なのである。したがって、Quirk *et al.* (1972)が指摘するinstitutionalized(公共性)の意味合いは、定冠詞theを使うことで生じるのではなく、theを使用するための前提条件(の一つ)なのだという認識が大切である。



#### 4. [the+固有名詞] に関する具体例を使った説明

##### 4.1 自然の地形およびそれに準ずるもの

###### 4.1.1 Gulf / Bay, Cove

GulfとBayの例としてthe Persian GulfとKuwait Bay, Mirs Bay, Fiarview Coveを取り上げてみる。the Persian Gulfは、フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』からの抜粋である(6)の下線部を読んでもわかるように、世界で最も大きな石油資源としての社会的重要性が大きい。また、そのような属性は、他の類似のGulf、すなわち世界に存在する横並びのGulfを想起させる。石油資源という属性、Quirk *et al.* 流に言い換えると公共性が重要な働きをしている。

- (6) **The Persian Gulf** and its coastal areas are the world's largest single source of crude oil and related industries dominate the region. Al-Safaniya, the world's largest offshore oilfield, is located in the Persian gulf. …The oil-rich countries (excluding Iraq) that have a coastline on **the Persian Gulf** are referred to as the *Persian Gulf States*. (下線筆者)

(*Wikipedia*, [http://en.wikipedia.org/wiki/Persian\\_Gulf](http://en.wikipedia.org/wiki/Persian_Gulf))

また、Gulfのほかの例としてthe Gulf of Mexico (the Mexican Gulf) を *Wikipedia* で同様にみても “the 9th largest body of water in the world”、また “provide a wide array of valuable resources to the nation on its shore” と説明されており、やはりその公共性において担う役割が大きいことがわかる。このように、各Gulfにはそれぞれに公的役割があり、人類にとって重要な役割を果たしているといえる。

一方、Kuwait Bayに関して、*Wikipedia* に説明は存在していない。湾岸に存在するKuwait国においては、他にも数多くのbayがあり、Kuwait Bayが他のbayと対比すべき属性、すなわち社会的重要性を有するとは考えがたい。百科全書に取り立てて記述が存在しない所以であろう。

###### 4.1.2 River / Rapid, Creek, Stream

Riverの例としてthe Thamesとthe Potomac Riverを調べてみる。まずthe Thamesについて(7)の下線部をみても、やはり社会的重要性、公共性が書かれている。

- (7) The **Thames** is a river flowing through southern England, and one of the major waterways in England. While perhaps best known because its lower reaches flow through central London, the river flows through several other significant towns and cities, including Oxford, Reading and Windsor. (下線筆者)

(*Wikipedia*, [http://en.wikipedia.org/wiki/River\\_Thames](http://en.wikipedia.org/wiki/River_Thames))

他方、Granite Rapid, Wounded Knee Creek, Mangahouanga Streamについて調べてみ

ると、Granite Rapid, Mangahouanga Streamについての説明は一切なく、Wounded Knee Creekについての説明のみあった。しかも、(8)を見てもわかるように、やはり公的重要性については一切明記されず、地理的特徴への言及にとどまる。

- (8) Wounded Knee Creek is a tributary of the White River, approximately 50 mi (80 km) long, in southwestern South Dakota in the United States. LakotaIts Lakota name is Chankwe Opi Wakpala. …It rises in the southeastern corner of the Pine Ridge Indian Reservation along the state line with Nebraska and flows northwest, past the site of the 1890 Wounded Knee Massacre and the towns of Wounded Knee and Manderson. It flows NNW across the reservation and joins the White south of Badlands National Park.

(*Wikipedia*, [http://en.wikipedia.org/wiki/Wounded\\_Knee\\_Creek](http://en.wikipedia.org/wiki/Wounded_Knee_Creek))

このように、天然の地形についての例を見てみると、theの有無は正保(1996)や樋口&Gorman(2004)が説明しているような物理的な世界における境界線や大きさではなく、公共的重要性によって判断されていると考えたほうが妥当なようである。一般的にgulfやriverは公的意味合いが強く、その属性に注目されやすいことがわかる。その属性を介することで、固有名詞として単なる関係者同士の了解事項(ラベル)にとどまるのではなく、第三者的な視点から客観的に理解される存在へと変質する。すなわち、一般名詞化するのである。指示対象は、その属性が際立つことによって、名称としての『具体』性に『抽象』性が加わり、そのプロセスの中で、横並びに存在する他の同類のものと自らを区別する必要が生じてくる。同類のBでもCでもなく、Aであることを主張することが、定冠詞の役割である。繰り返していうが、それは、総称のtheと共通するメカニズムと同じなのである。

## 4.2 人工の建造物

次に、人工の建造物において固有名詞に対するtheの有無はどのように判断されているのか見てゆきたいと思う。人工の建造物において、今までは「空港・駅にはtheが付かない。博物館、動物園にはtheがつく」と紋切り型に説明されてきた。しかし実際にはそのような絶対的なものではなく、何らかの理由により文脈やコロケーションの関係の中で横の同類のものを想定するほうが普通であるという場合、そしてその中で対比を行うときにはtheをつける。

### 4.2.1 「theをつける」と一般的に説明されているもの

#### 4.2.1.1 博物館・動物園

正保(1996, p.120, p.127)、樋口&Gorman(2004, pp.345-346)の説明によると、博物館や動物園にはtheが必要であるとされている。確かにこれらには、theをつけることが多いが、実際にはtheを伴わない場合もある。以下に例を挙げてみる。

- (9) **Auckland Museum** is housed in one of New Zealand's best-known heritage buildings. Located in the Auckland domain, with spectacular views of the city and harbour, the Museum also serves as a war memorial, with moving galleries telling the story of New Zealanders at war. (太字筆者)

(*Museum of New Zealand Te Papa Tongarewa*, 2002, <http://www.nz museums.co.nz>)

- (10) The Museum's galleries showcase the natural, cultural, and social history of New Zealand. **The Auckland Museum** contains a comprehensive display of Maori and Pacific Island culture, as well as the natural world, telling the story of New Zealand's history with the aim of being a source of inspiration to communities. The Auckland museum, also carrying out the role as a war memorial, presents the history and environment of the Auckland Region, New Zealand, the South Pacific and, in more general terms, the rest of the world. (太字筆者) (*Human Rights Commission*, <http://www.hrc.co.nz/home/>)
- (11) **Taronga Zoo** is approximately 12 minutes by ferry from Circular Quay and the CBD. (Ferries depart Circular Quay, every quarter past and quarter to the hour) . (太字筆者) (*Taronga and Western Plains Zoos*, <http://www.zoo.nsw.gov.au>)
- (12) Operates **the Taronga Zoo**, Sydney and **the Western Plains Zoo**, Dubbo. Visitor information, education program summary, animal photos, botanical garden care, conservation information. (太字筆者) (*Taronga and Western Plains Zoos*, <http://www.zoo.nsw.gov.au>)

(9)、(11)の[無冠詞+固有名詞]形は単なる地図上の地点として、museum, zooを示しており、横の対比、すなわち同類の仲間とのコントラストが必要でない。(10)、(12)の[the+固有名詞]形は、単なる場所というよりも、他の横並びと見なされる同類のものとの対比することにより、見世物・施設としての役割を重要視していることがわかる。

つまり、ここで言えることはthe+固有名詞の場合には、同類・同種のメンバーとのコントラストを行うことにより、それぞれの施設の機能面に重点が置かれているということである。定冠詞theをつけることにより、総称のtheの場合と同じく、横との対比によりその名詞は単なる名前としてのラベルから、属性への焦点化を経て、概念化・抽象化され、institutionalizedされるのである。博物館、動物園に定冠詞が伴うことが多いのは、これらが場所としてよりも他との比較によりその機能面・施設面といった属性に焦点をあて、公的・制度的意味合い(institution)を持つ存在として認識されているからだといえる。

地図上の一点に過ぎぬ名称としてとらえるのが妥当か、あるいはその属性に注目してとらえるのが妥当かの判断は、使い手が文脈の中で行うことであるらしい。そうだとすれば、この(種の)固有名詞にはtheが付かないが、この(種の)固有名詞にはtheが付くという、絶対的な基準で用法を説明すること自体、無理があるように思われる。

#### 4.2.2 「theをつけない」と一般的に説明されているもの

##### 4.2.2.1 駅・空港

確かに駅・空港に関してインターネット検索を行ってみても、圧倒的に無冠詞形が多い。しかし、theを用いた形もゼロというわけではない。以下に例を挙げてみる。

## (13) Victoria Station in London

Having its origin with the Great Exhibition of 1851, **the London Victoria** is the official name for the National Rail Station. Interestingly, this name is more often used outside London and quite rarely by the Londoners themselves. (下線筆者)

(*Easy to Book.com*, 2007,

<http://www.easytobook.com/en/london-hotels/london/transportation>)

一般的にはどの駅も列車が発着し、旅客を運ぶというように機能面は同じであるので、他の駅とコントラストをしても差異はあまりない。よって無冠詞形で用いられることが大多数であると考えられる。しかし、(13)を見てもわかるように定冠詞theを用いることもある。the London Victoriaはロンドン以外の人々によって使われている呼び方であり、ロンドンに住んでいる人々の間では使われていない。これはロンドンに住んでいる人にとっては、Victoria Stationも他の駅と同様の駅であり、他の駅とコントラストをさせてその機能面を引き出す必要はないからだと思われる。ロンドンというローカルコミュニティーにおいては、Victoria Stationは単なるラベル(愛称)として機能しているのである。

しかし、ラベルとしての捉え方から、それがもつ属性に視点が移行するにつれ、Victoria Stationの性質は異なってくる。Victoria Stationはイギリスの主要駅の一つであり、南海岸方面とDoverを経由し大陸方面へ運行している(『リーダーズ・プラス英和辞典』電子辞書)交通の要衝であり、イギリス鉄道の中で公的意味合いにおいて重要な役割を担っていることが意識にのぼる。そのとき、交通の要衝と位置づけられる他のメンバーが想起され、それらとの対比を行うことによって、概念化のプロセスが起動するのである。そして、横並びの中で今注目しているのは他ならぬVictoria Stationであることを、theが主張しているのである。

Airportの場合もStationと同様であると考えられる。もともとはそれぞれの空港において旅客輸送の拠点という機能面において同じであり、横とのコントラストを引き出す必要性は低く、そういう場合にはtheをつけて他のairportsとコントラストをする必要はない。しかし、特に横の同類のものとのコントラスト性を意識しながら、その役割分担に重点を置きたいときにはtheをつける。(14)では、the Sydney International Airportと記載されているが、シドニー空港と呼ばれているものには実際には、国際線・国内線の2つのターミナルが存在し、(14)では暗黙のうちに国内線と国際線ターミナルをコントラストさせその役割分担を導き出すために定冠詞theが用いられている。

## (14) Please proceed to The Sydney Visitors' Information Desk, situated in the Arrivals Hall of the Sydney International Airport, where the driver will wait for you.

(*Australian City Life Sites*, <http://www.affiliate.viator.com>)

このように、今までtheを付けると説明されていた人工の建造物においても、実際にはtheが伴うときとそうでないときがあり、それはその建造物に対する視点の違いから起こる。もしその建造物のロケーションに重点が置かれているならば、他の同類である横とのメンバーシップの対比は必要ない。一方、その建造物の設備・機能面などに重点がおかれる場合には、横との対比があつてこそ比べることができる。属性を際立たせ、たとえば施設・機能面など横並びの想起される同類との比較が可能となったとき、頭の中での概念化



プロセスが立ち上がり、固有名詞が一般名詞へと変質してゆく。定冠詞theは、他の同類・同種の中から、概念化による選別作業を経たことの証として登場するのである。

#### 4.2.3 「theを付けるものと付けないもの両方がある」と一般的に説明されているもの

##### 4.2.3.1 道路

例えば、正保（1996）は、道路・通りなどの名前は原則として無冠詞である（p.116）と説明しており、樋口&Gorman（2004）は、道路名も、河川名と同様に、長距離の場合には他地区の住人にも同定されるのでtheが付けられ、市内の通りの場合は他地区の住人には同定しがたいので無冠詞で用いられる（p.314）と説明している。

道路もその基本的機能は皆同じであるので、theをつけてコントラストさせる必要はない。ローカルコミュニティにおいてその道路の存在を示すためには、単に固有名詞としてそのものの存在を名前としてのラベル、すなわち無冠詞で示すだけで事足りる。

しかしながら、その道路が他の道路と比較して社会的に何らかの重要性を持つ場合、単に名前としてのラベルからそれに概念的な意味を付加するようになるのだと思われる。例えば、the Mallを見てみると（15）のような説明がなされている。the Mallは王室のあるバッキンガムパレスに通じる道であり王室と関連が深く、日曜・祝日・祝賀の時には閉鎖されるといった特殊な道路であり、公的重要性が他と比べると高いことがわかる。大切な属性に注目して概念化させ、そして横の同類と対比させ、今はこのMallに注目をしているのだということを示すためにtheでくくっているのである。

- (15) **The Mall** (IPA: /mæl/) in London is the road running from Buckingham Palace at its western end to Admiralty Arch and on to Trafalgar Square at its eastern end, where it crosses Spring Gardens, which was where the Metropolitan Board of Works and for a number of years the London County Council was based. It is closed to traffic on Sundays and public holidays, and on ceremonial occasions.

(*Wikipedia*, [http://en.wikipedia.org/wiki/The\\_Mall](http://en.wikipedia.org/wiki/The_Mall))

## 5. まとめ

今まで固有名詞に付くtheと総称表現のtheは個々別々のものとしてとらえられてきた。しかし、固有名詞に付くtheは、総称表現のtheと同様に、同類の横並びメンバーとの対比を行い、そこである種の概念化が起こったことの証なのである。たとえば、the dogのような総称表現の場合は、その概念化が「イヌというもの」という、個（具体性）から類（抽象性）への視点移行であり、the Persian Gulfのような固有名詞では、ラベル（具体性）から属性（抽象性）への視点移行である。そうなると、従来文法書などで説明されてきたように、「○○だからtheがつかない」と断言することはもはや不可能である。とらえ方は、文脈によって異なるからである。

以上のように、今まで一切関係性が論じられることのなかった総称表現のtheと固有名詞に付くtheは、基本原理において通底していることがわかった。あえて付言するならば、このことは、英語教育においても意味するところ大である。なぜならば、両者に共通の基本原理を英語学習者が理解することができれば、彼（女）らが抱きがちな、冠詞に対する苦手意識を解消することに役立つと考えられるからである。

## 参考文献

*Australian City Life Sites*. <http://www.affiliate.viator.com>

*Easy to Book.com*. (2007) <http://www.easytobook.com/en/london-hotels/london/transportation>

樋口昌幸, Gorman, M. (2004) 『現代英語冠詞事典』 東京：大修館.

*Human Rights Commission.*, <http://www.hrc.co.nz/home/>

*Museum of New Zealand Te Papa Tongarewa* (2002) <http://www.nzmuseums.co.nz>

織田稔 (1982) 『存在の様態と確認—英語冠詞の研究—』 東京：風間書房.

織田稔 (2002) 『英語冠詞の世界、英語の「もの」の見方と示し方』 東京：研究社.

Quirk, R., Greenbaum, S., Leech, G. (1972). *A Grammar of Contemporary English*. London : Longman Group Limited.

『リーダーズ・プラス英和辞典』 (2000) 東京：研究社.

正保富三 (1996) 『英語の冠詞がわかる本』 東京：研究社.

*Taronga and Western Plains Zoos*, <http://www.zoo.nsw.gov.au>

*Wikipedia* (フリー百科事典『ウィキペディア』) <http://en.wikipedia.org/wiki>